

第6回 軽井沢スキーバス事故対策フォローアップ会議 概要

日時：令和3年8月24日（火）10：00～12：00

会議形式：ウェブ会議

出席委員：山内委員長、酒井委員長代理、安部委員、稲垣委員、浦郷委員、加藤委員、
駒井委員、清水委員、志村委員、住野委員、松田委員、水野委員、村木委員

議事次第に沿って、事務局や各関係業界団体から資料の説明があった。各資料説明後、質疑・意見交換が行われた。委員から出された主な意見は以下の通り。

（全体関係）

○ 各指標や各対策について、新型コロナウイルス感染症による影響が分かるように配慮してもらいたい。

（資料1関係）

- 各指標の数値が例年から大幅に減少している理由が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響によるものなのか、対策の有効性によるものなのかを明確にしてもらいたい。
- 運賃の届出違反が確認された営業所数は減少傾向にあるものの、新型コロナウイルス感染症による影響と考えられるので、引き続き対策をしてほしい。
- 事故から5年が経過し各種取組が進んでいる一方で新型コロナウイルス感染症の影響もあることから、フォローアップだけではなく新規施策も検討していく必要があるのではないかと。また、新型コロナウイルス感染症で苦しんでいる貸切バス業界に対する支援が必要。

（資料2関係）

- 数値上、適正化機関による巡回指導の実施率が減少したのは、適正化機関がコロナ禍の影響に応じて巡回先を重点化していることの結果であり、実施率のみで評価することは適切ではない。今後需要が回復した際も、稼働率急増によるリスクを考慮し重点化して実施する必要。
- 適正化機関が巡回指導をする際に、指導員によって指導内容に差が出ることがないように取組が必要。
- ASV 技術の効用を検証していくために、ドライブレコーダーのデータ活用等も含めて検討してもらいたい。
- 衝突被害軽減ブレーキ等の技術が進展する中においても、引き続き乗客がシートベルトを装着するよう取り組む必要がある。

（資料3関係）

- 他の会議で検討されている運転者の健康状態に起因する事故に対する対策について、乗務員側の意見も取り入れながら引き続き検討してほしい。
- バリアフリーやユニバーサル観点の視点が今後重要。例えば車いすの乗客に対して、運転者がスムーズに対応出来るよう、日頃から訓練を行うことが重要。

(その他)

- 日本バス協会として運行管理の体制強化は重要と考えており、例えば貸切バスの運行管理者資格の更新制を導入すべきと考えている。また、貸切バスの需要が戻った時にダンピングが横行しないよう、国の監査をしっかりと実施してほしい。

以上